

2020年7月29日  
イオンリテール株式会社

## あいづ有機農法生産組合×豊洲市場×イオンリテール＝鮮度向上 オーガニック野菜 東京・千葉「イオン」11店 収穫翌日に店頭へ オーガニック野菜売上高前年比5割増へ※<sup>1</sup>

イオンリテール南関東カンパニー（東京・神奈川・千葉・山梨の「イオン」「イオンスタイル」を運営）は、オーガニック野菜の品揃えならびに更なる鮮度向上に向けて、新たなバリューチェーンを構築します。

8月1日（土）より都心部の11店舗※<sup>1</sup>において、オーガニック野菜最大9品目※<sup>2</sup>を収穫の翌日に店舗に展開を開始します。

### ～会津若松市との地域貢献協定を契機にイオンリテールと3者でお客さまニーズに対応～

この取り組みは、会津若松市の「あいづ有機農法生産組合」が有機JAS農産物の生産を担い、豊洲市場で有機JAS農産物の小分け業者としての有機認証を有する「東京シティ商事㈱」が商品化を行い、東京・千葉の総合スーパー「イオン」「イオンスタイル」11店舗で販売するものです。

### ～生産・商品化を「専門化」。合理的に高鮮度のオーガニック野菜を店頭へ～

オーガニック野菜は、これまで小口販売が主であることから、集荷や商品化などの流通過程の合理化が喫緊の課題でした。少量の流通により物流コストが高いほか、販路も限定的なことから生産者は増産に踏み切れないなどの課題がありました。

これを当社が数量契約を行い、販路を明確にすることで生産者が安心して生産いただけるようにしました。加えてこれまで生産地で行うことが一般的であった包装や梱包などの商品化を市場で集中して行い「専門化」を図るスキームを提案、合理化を実現しています。

### ～「トップバリュ グリーンアイ」と合わせ、需要拡大に対応～

また、お客さまの健康志向や食への安全・安心への関心の高まりから南関東カンパニーのオーガニック野菜の売上は、直近5年間で約300%と販売規模が急拡大している分野です。特に都心部は需要が大きいエリアです。当社においても、イオンのブランド「トップバリュ グリーンアイ」のオーガニック野菜のお取引先さまは、同期間で48社増の57社になるなど、こうした需要にお応えすべく供給量やオーガニック野菜売場の拡大を図っています。

### ～地域密着経営を推進。南関東カンパニーでは「鮮度改革」～

当社は、より一層の地域密着経営を行い、地域に根差した品揃え拡充を各カンパニーで進めています。南関東カンパニーでは、生鮮食品の更なる鮮度向上が首都圏のお客さま満足向上への課題と認識しています。この度のオーガニック野菜の新バリューチェーン構築を皮切りに今後も鮮度向上を推進してまいります。

※<sup>1</sup>：「イオンスタイル南砂」「イオン東雲店」「イオンスタイル御嶽山駅前」「イオンスタイル有明ガーデン」「イオンスタイル品川シーサイド」「イオンスタイル板橋」「イオン葛西店」「イオン練馬店」「イオンスタイル碑文谷」「イオンスタイル新浦安」「イオン市川妙典店」の計11店舗。

※<sup>2</sup>：8/1～ミニトマト・きゅうり・ズッキーニ・インゲン・おくら。  
以降、みずな・長ねぎ・なす・ピーマンを予定。